

渋谷区の JR 千駄ヶ谷駅周辺で 12 月 8 日、携帯電話の音声読み上げ機能を使い、視覚障害者が一人で歩けるよう道案内するシステムの実証実験があった。集積回路（IC）つき装置「IC タグ」で無線信号をやりとりし、視覚障害者が持ち歩く携帯電話から現在地や進行方向などの位置情報を読み上げる自動音声が出るしくみだ。システムは今後、都内各地で導入予定という。（真海喬生）

「改札を背にして構内を正面 12 時の方向へ 30 メートルほど進むと、信号のある横断歩道があります」。この日、視覚障害者が IC タグを接続した携帯電話を持ち歩くと、路面に埋め込んだ IC タグの上を通るたび案内の音声 flowed。

モニターとして参加した府中市の大西明男さんは「音声で場所を教えてくれるので安心、自分一人でも出かけられそうです」と話した。

実験は、視覚障害者向けに音声で道案内するホームページ「ことナビ」を運営する NPO 法人「ことばの道案内」が、東京都や通信機器会社などと協力して行った。すでに千駄ヶ谷駅と高田馬場駅（新宿区）周辺に計約 90 個の IC タグを埋め込んでいる。

実証実験で読み上げられた道案内の文章は、「ことナビ」を利用したものだ。方角を「3 時の方向」な

どと時計を使って表現し、階段の段数や点字ブロックが途切れる地点なども説明。「ことナビ」には都内など約 900 ルートが掲載されている。

「ことナビ」を 2002 年に開設した「ことばの道案内」の古矢利夫理事長は約 20 年前、病気が原因で失明した。視覚障害者の自立や社会参加を進めようと 1999 年、視覚障害者向けパソコン教室を設立した。

だがそこで、視覚障害者にとっては教室に来ること自体に困難が伴うと気づいた。「視覚障害者が一人でも外出できるしくみをつくらないと、自立は進まない」との思いから「ことナビ」を開設。音声案内のシステムを各地で展開する取り組みを進めた。

2005 年には通信機器会社エル・エス・アイジャパンと協力し、カーナビ同様に全地球測位システム（GPS）を使った道案内システムの開発を試みた。だが GPS の信号はビルに遮られやすく、精度がよくないため断念。2007 年から路面の IC タグとの間で無線通信する方式に切りかえた。今回の実証実験は、IC タグ方式での道案内システム実用化に向けた第一歩となる。

（朝日新聞・東京 2010 年 12 月 9 日）